

資料3

# 松仙園地区現地調査結果



①平成29年8月4日(金)

平成28年度(繰越)大雪山国立公園松仙園線道路(歩道)  
測量・植生調査・実施設計業務現地調査

②平成29年9月15日(金)

松仙園地区適正利用に関する現地調査  
(松仙園地区適正利用推進協議会メンバーによる現地調査)

(参考事項)

平成29年7月

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園

富士田教授研究室による学術調査

# 平成28年度(繰越)大雪山国立公園松仙園線道路 (歩道)測量・植生調査・実施設計業務現地調査

- 実施日

平成29年8月4日(金)

- 参加者

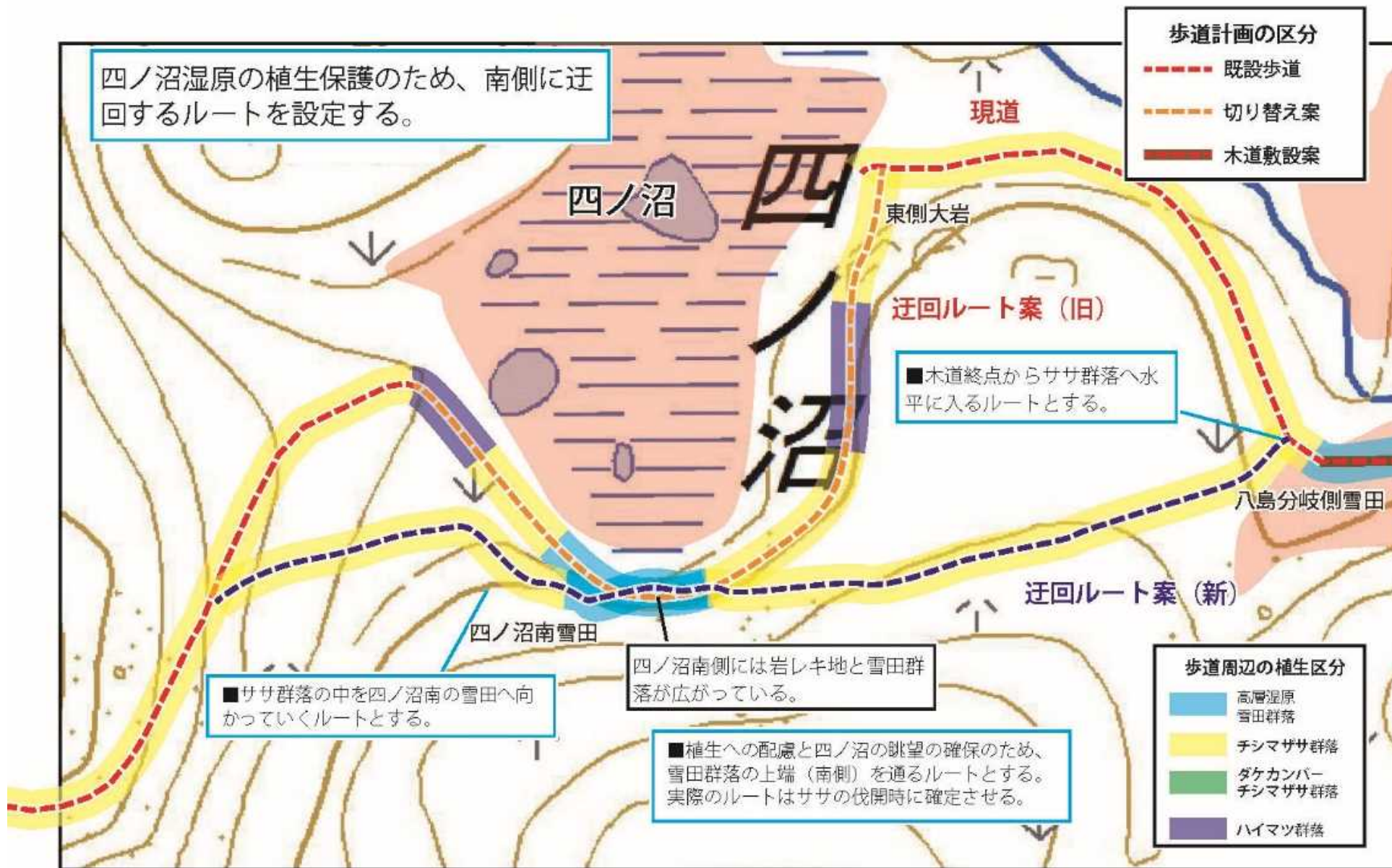
佐藤謙北海学園大学名誉教授、富士田裕子北海道大学教授、

北海道地方環境事務所及び請負事業者(さっぽろ自然調査館、北斗エンジニアリング)

- 概要

四ノ沼のう回路については、ハイマツを抜開するのではなく、ササ群落を通過させる方がよい。

湿原植生の保全に資する、ハイマツ抜開跡は歩きにくい(岩塊も多い)、距離が短い、高低差が少ない等のメリットが大きいため。



四ノ沼湿原の植生保護のため、南側に迂回するルートを設定する。

- 歩道計画の区分**
- 既設歩道
  - 切り替え案
  - 木道敷設案

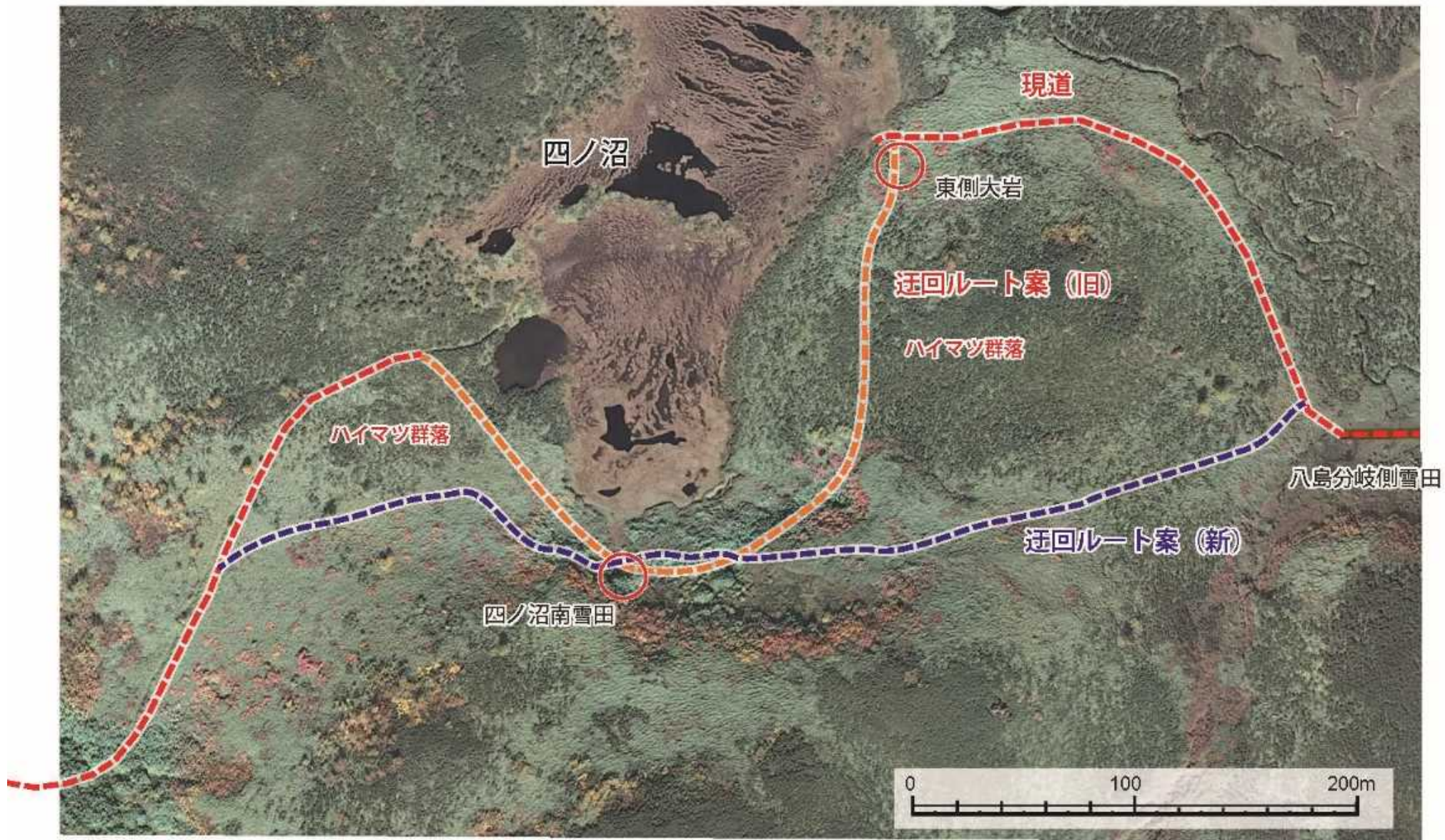
■木道終点からササ群落へ水平に入るルートとする。

■ササ群落の中を四ノ沼南の雪田へ向かっていくルートとする。

四ノ沼南側には岩レキ地と雪田群落広がっている。

■植生への配慮と四ノ沼の眺望の確保のため、雪田群落の上端（南側）を通るルートとする。実際のルートはササの伐開時に確定させる。

- 歩道周辺の植生区分**
- 高層湿原 雪田群落
  - チシマササ群落
  - ダケカンバー チシマササ群落
  - ハイマツ群落



# 松仙園地区適正利用に関する現地調査

(松仙園地区適正利用推進協議会メンバーによる現地調査)

## ●実施日

平成29年9月15日(金)

## ●参加者

- 株式会社りんゆう観光層雲峡事業所長 佐藤 竜也 氏
- 旭川山岳会 顧問 土屋 勲 氏
- 北海道大学大学院農学研究院 准教授 愛甲 哲也 氏
- 大雪と石狩の自然を守る会 事務局次長 関口 隆嗣 氏
- 上川総合振興局南部森林室 代理 一般財団法人北海道森林整備公社  
旭川出張所巡視員 石倉 信介 氏
- 大雪山国立公園パークボランティア連絡会 会長 黒田 忠 氏

# 現地調査の行程

日時: 9月15日(金) 9:00~15:30

## 《行程》

【9:00】 愛山溪温泉 (集合・出発) → 【11:00】 二ノ沼、三ノ沼 →

【12:30】 四ノ沼 (昼食・休憩) → 【13:00】 四ノ沼 (出発) →

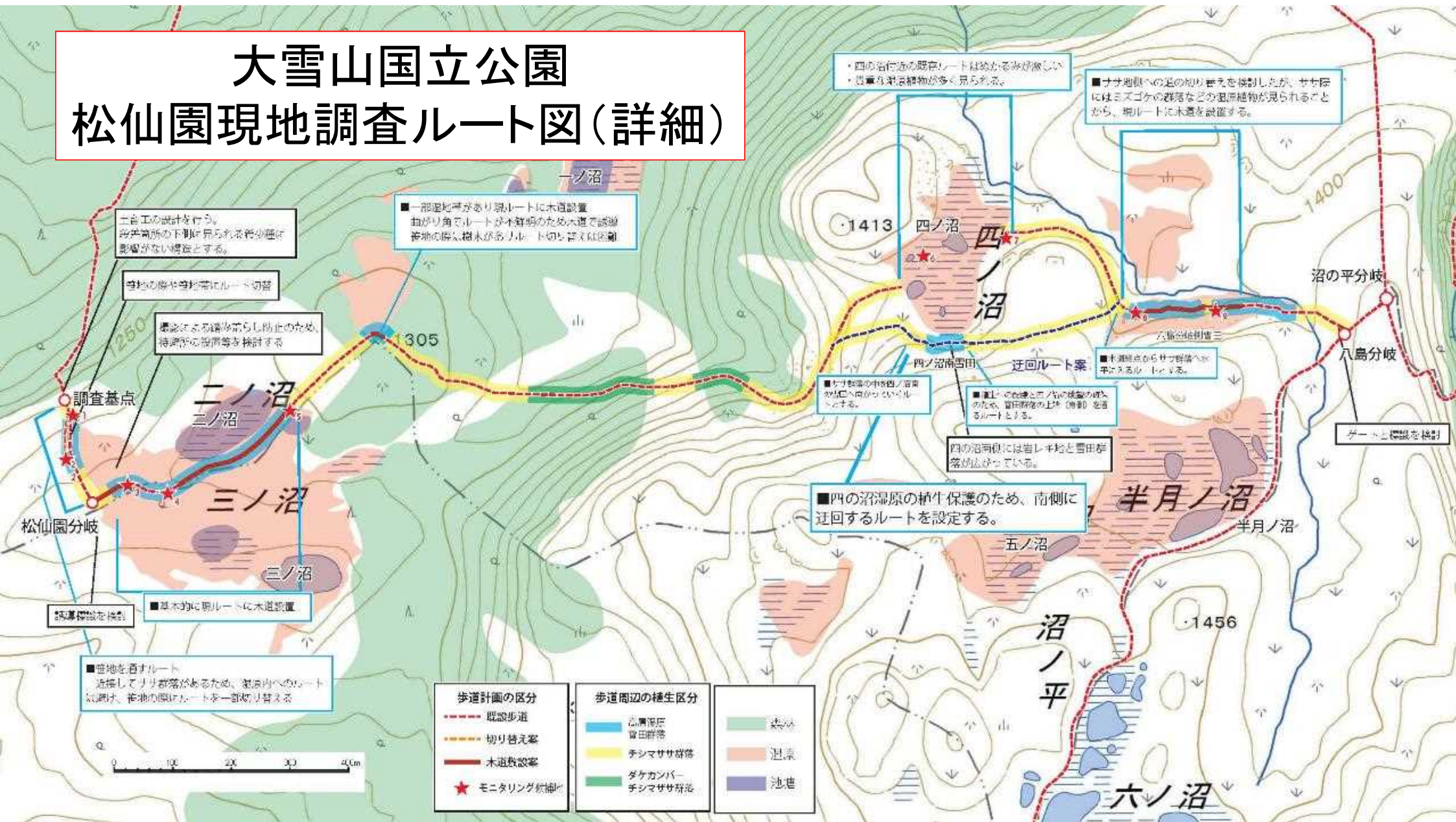
【14:00】 八島分岐 → 【15:30】 愛山溪温泉 → 解散

# 大雪山国立公園 松仙園現地調査ルート図





# 大雪山国立公園 松仙園現地調査ルート図(詳細)



# 二ノ沼までの登山道



# 二ノ沼



## 四ノ沼までの登山道



# 四ノ沼



# 雪田植生



# 感想

## ●現地の雰囲気

- はじめて松仙園に入ったが、とても美しい場所だと感じた。
- 登山者が増えてほしいと思う反面、たくさんの方が入り込むことによって植生が傷むことが心配である。
- 霧の中の松仙園も雰囲気があってよかった。植物や鳥に興味がある方々も楽しめそうだと感じた。
- 昔、松仙園の登山口からの登山道には、ツバメオモトが群落していたが、今回登ったときには、株も少なく、小さな物しか確認できなかった。当時と植生に変化が現れているのだろうか。八島ケルンの慰霊碑を確認できたのは、収穫であった。
- 八島定則さんなど6名の方が犠牲になった昭和28年3月の雪崩事故のことも伝えていかなければならない事ことだと思う。

## ●新たな迂回ルートについて

- 今回の現地調査では四ノ沼の中を通るルートと迂回ルート側からの景色を見たが、新しくできる迂回ルートを通行するのが良いと思った。迂回ルートだと湿原が傷まず、四ノ沼を見下ろせる位置にあるため眺めがいい。
- 四ノ沼の迂回ルートには賛成である。松仙園は湿原を上から眺め楽しんでもらうというイメージを周知したほうが良いと感じた。



## ●注意が必要な事項

- ニノ沼に至る森林帯を通る道は歩きにくく、登山に慣れていない人には難しい道だと感じる。
- ニノ沼に至る森林帯を通る道については、排水をしっかりとしないと、一般の登山者には登りづらいただろうと感じた。
- 湿原以外の区間で特にササが生育する箇所については、整備、維持管理の手間がかかるのではないか。ササを刈るだけでは足元が不安なところもあり、四ノ沼に至る斜面をトラバースする区間では侵食が心配。
- 湿原を強調しすぎると、池塘等を間近に見ることができるものと誤解されてしまうので、誤解のないよう注意が必要。
- 湿原への立ち入りを制限するためのロープ等を張らないのであれば、湿原への立ち入りを防止するための啓発が必要だと考えられる。
- 松仙園を下りで利用したいと考える登山者が、ゲートを越えて行ってしまうことも考えられるのではないか。
- 来年度工事が予定されているので、松仙園利用者に対する情報の出し方を早めに考えておくべき。